

【教育目標】 英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

中野だより

令和元年 9月24日 発行 第16号 発行者:中野区立中野中学校

「宿題」のお話

放課後、夏休みの宿題を終えていない生徒が居残りで仕上げていた。はじめは嫌々残っていたのだろうが、宿題を仕上げて下校する時の表情は晴れやかだ。

夏休みの宿題に関してある大学の先生が小学生460人を対象に、「計画」と「実際の行動」について調査を行った。

その結果、休み前の「計画」では、①毎日少しずつ宿題をする「継続型」が61% ②夏休みが始まってすぐに終わらせる「前半集中型」が34% ③夏休みの最後にまとめて取り組む「後期集中型」が2%。

一方、夏休み中の「実際の行動」は、①毎日やる「継続型」は68%（7ポイント増） ②すぐに終わらせた「前半集中型」は14%（20ポイント減） ③「後期集中型」または、居残りで仕上げた「計画破綻型」は18%。



「宿題」は江戸時代の狂言師大田南畝という人が初めて使った言葉だという。知人への書簡の中で、詩会のお題を前もって示しておくことを「宿題」と記載していた。明治時代になって国の教育制度が定められると、宿題は学校現場で急速に広がることになるのだが、これは夏休みと深く関わっている。

明治14年、日本は欧米にならって「夏休み」を定めた。欧米では新学年は9月に始まり、翌年夏までに学年が修了し夏休みに入る。日本は、新学年が4月に始まり、7月に夏休みに入る。学習が軌道に乗りかけた頃に長い休みに入ることで、学習が中断されるだけでなく、理解したことを忘れてしまう。その対策として夏休み中は宿題を出して学力を維持しようとしたのである。

夏休みの宿題の定番といえば自由研究。数年前、中2男子が行った「走れメロス」に関する研究が「面白い」と話題になった。

「走れメロス」は、メロスが故郷の村と市の往復を走りぬいて約束を果たす太宰治の小説で、中2の国語の教科書にも取り上げられている。中2男子は、メロスがどの程度のスピードで走ったのかを小説中の言葉等から解明している。

まず往路。村と市の片道は「十里」、すなわち39km。メロスが市を出発したのは、

「初夏、満天の星」から午前0時を推定。村への到着は「日は既に高く、村人たちは野に出て仕事を始めていた」より午前10時と推定。結局、メロスは39kmの道のりを10時間で移動したことにより、そのスピードを時速3.9kmと導き出す。人の平均歩行速度は時速4kmだから、「なんだメロスは普通に歩いているじゃないか」と驚く。

次に復路。物語の舞台である「シラス」はイタリアのシチリア南部に位置し、日本の仙台と同じ北緯38度にあることを突き止める。目覚めは「薄明の頃」より、仙台の初夏の日の出時刻と同じ午前4時ごろ。「悠々と身支度を始めた」ため、出発を午前4時30分に設定。到着は「日没ギリギリ」より午後7時。こうして所要時間14時間30分を割り出し、時速2.7kmで戻ってきたことを明らかにした。

考察は、「今回調べてみて、メロスは全く全力で走っていないことがわかりました。『走れメロス』というタイトルは『走れよ！メロス』のほうがあっているなと思いました」

柔軟な発想、豊かな好奇心、そして優れた調査能力に太宰治も感服するに違いない。

夏休みの宿題の話をしたが、昨日は金木犀の香りが街に漂っていた。中野中は実りの秋を迎える。

アンネのバラ

アンネはナチスからの迫害を逃れるため、二年間屋根裏で生活しました。その時に「アンネの日記」を書きました。アンネは十五歳で亡くなりますが、書籍として出版された「アンネの日記」は二千五百万部を超えるベストセラーとなり、「世界を変えた一冊」と言われました。「アンネの日記」に感銘を受けた一人の園芸家が、自ら品種改良したバラの花をアンネの父親に贈りました。それが「アンネのバラ」です。

四十年程前、杉並区の高井戸中の生徒たちが「アンネの日記」の感想文をアンネの父親に送りました。父親は大変感激し、高井戸中に「アンネのバラ」をお礼として贈りました。バラは高井戸中で大切に栽培され、かねてより交流のあった中央中にも株分けされました。中野中が開校すると、バラは生徒会を中心とする「アンネのバラボランティア」によって栽培されるようになりました。

今年の夏休みも、大勢の生徒が水遣りや除草の作業を行なってくれました。大半は部活動や学習教室で登校した折に作業をしますが、バラの手入れだけを目的に登校する生徒もいました。

中野中にとって「人権の象徴」であり、「ボランティアの象徴」である「アンネのバラ」は、これからも繊細な杏とオレンジ色の花を咲かせることでしょう。

(「あらい地域ニュース」に掲載された内容です)



ボランティア活動を行った生徒へ

アンネのバラボランティアや地域でボランティア活動を行った生徒が報告書を提出することにより、学校から「ボランティアスピリッツ賞」が贈呈されます。申請用紙は地域連携担当の先生や担任の先生から受け取ってください。

夢を現実に!!

～オリンピックパラリンピック講演会～

9月10日(火)、「味の素」の社員で、ビクトリー・プロジェクトのリーダー栗原秀文さんを講師にお迎えし、オリパラ講演会を実施しました。

東京都北区に、国立のトレーニング施設があります。日本のトップアスリートの国際競技力の向上を目指して作られた施設で、「味の素ナショナルトレーニングセンター」と命名されています。「味の素」は、日本オリンピック委員会(JOC)と共同で、オリンピック選手を強化し、メダル獲得を増加させるための栄養支援「ビクトリープロジェクト」を進めています。

今回ご講演をしてくださった栗原秀文さんはビクトリー・プロジェクトのリーダーとして、フィギュアスケートの羽生結弦選手や競泳の瀬戸大也選手等のトップアスリートを「食」でサポートし、オリンピックや世界選手権でのメダル獲得に多大な貢献をされている方です。

講演の中では、1日の食事の中で「ま・ご・に・わ・や・さ・し・い」を食べることが望ましいことや、羽生結弦選手や瀬戸大也選手を「食」でいかにサポートされたのかなどについてもお話をいただきました。

講演の最後には、「自分の夢」をもつこと。「夢」に向かって強烈に進むこと。「夢」は誰のものでもないこと。「夢」を実現するために「自分の脚」で進むことを熱く語っていただきました。

1学年だよりより

僕にはまだ夢がないのですが、中学生となり目標がたくさんできました。新しいことに挑戦してみると、他の学校の新しい仲間ができたりして学校が楽しいです。僕は、あまり積極的に学ぼうとはしませんでした。が、「夢」や「目標」についてもっと向き合おうと思いました。(C組 河内羽輝君)



来年の夏開催される東京2020オリンピック・パラリンピックでは、中野中学校は味の素スタジアムでラグビーを観戦する予定です。

～部活動 夏の軌跡～

○中野区水泳大会

中学男子 200mフリーリレー	第1位	牛山・兎本・村松・神藤
中学男子 200mメドレーリレー	第1位	牛山・兎本・小松・神藤
同	第3位	赤松・青木・國分・川村
中学女子 200mフリーリレー	第3位	大谷・島崎・平岩・渡邊
中学男子 50m 背泳ぎ	第3位	神藤 航太
中学男子 50m バタフライ	第2位	牛山 修都
中学男子 50m 自由形	第3位	牛山 修都
中学男子 50m 平泳ぎ	第3位	小松 颯輝
中学男子 100m 平泳ぎ	第2位	小松 颯輝
中学男子 100m 平泳ぎ	第3位	窪田 倅士朗

○中野区ジュニアバドミントン大会

男子1年生の部 A	第3位	中村 朝陽
女子1年生の部 B	第3位	小池 めい
女子1年生の部 C	第3位	西本 風花
女子1年生の部 D	準優勝	遠山 友梨香
女子2年生の部 A	第3位	辰巳 あかり
女子2年生の部 B	第3位	久保田 千愛
女子2年生の部 C	第3位	今井 茉結

○中野区中学校バドミントン夏季研修大会

1年女子ダブルス 第3位 西本風花、遠山 友梨香

○関東中学校卓球大会

女子シングルス 岸 小都美

岸さんは都大会で上位成績を収め、茨城県日立市で開催された

関東大会へ出場しました。

○9支部卓球大会

男子団体 第3位

女子団体 第3位

○中野区中学校新人卓球大会

男子オープンの部 第5位 尾崎 敬人

女子1年の部 第3位 木村 友美

○9支部ソフトテニス大会

団体の部 第3位

○ソフトテニス夏季選手権大会

女子の部 優勝 田中 咲妃、加藤 京子

○東京都中学校吹奏楽コンクール

B組 銀賞